

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名:薄井 賢 所属:滋賀県立愛知高等養護学校(滋賀県総合教育センター 石垣秀憲・山本康雄)

記録日:令和4年(2022年)2月4日

キーワード:できることや得意なこと等を活かしたICT活用、見通しをもつことによる安心、集団での学習

【対象生徒の情報】

○学年:高等部3年生

○障害名:◎軽度知的障害、自閉スペクトラム症、愛着障害

○障害と困難の内容:集団での学習に不安や緊張が高くなる。特に対人不安が強い。

・使用した機器に

iPad iPhone watch chrome book AIスピーカー Pepper

【活動目的】

○当初のねらい

①先の見通しをもち、様々なことにおいてできるかぎり不安や緊張を和らげながら、落ち着いて学校生活を送れるようになる。

②集団の中で学習に参加し、「できた」という経験を積み重ねることで自信をつけ、「他者と協働してよかった感」をもつ。

○実施期間

令和3年6月22日～令和4年3月31日

○実施者

薄井 賢

○実施者と対象生徒の関係

学級担任

【活動内容と対象生徒の変化】

対象生徒の事前の状況

<生徒の実態>

・集団での学習に不安や緊張が高くなることから、高等部入学まではマンツーマンで学習することが多く、集団での学習には慣れていない。また、本校入学後から今年度に至るまでも個別の対応で学習をしてきた。

・1日の登校時間(6時間)×週2日(月・木曜日)。週3日は午前中の4時間登校。

・真面目な性格であり、一般的な社会性はあるが、様々なことに対する不安や緊張から、離脱等の周囲への注目行動を起こす場面が多々ある。

<生活面>

・身の回りのことは一人で行うことができる。

・公共交通機関を一人で利用することはできるが、気持ちの不安定さや突発的で不安定な行動が起こるので、現在では安全面を最優先にして、移動手段は保護者の自家用車送迎である。

・自宅ではスマホやタブレットなどを使用し、音楽を聴いたり動画を見たりして過ごしている。

<学習面>

・小学校4年生程度の学力がある。

・自分のできることに関しては自信をもって前向きに取り組むことができる。

・パン作り作業が好きで、安心できる教員と一緒に3時間半、休憩をはさみながら10人程度の集団で取り組むことができる。

・聴覚からの情報を整理することは苦手なので、視覚支援は必須。10分以上の話には集中できない。

・学習内容が「分かる」か「分からない」への不安をもち、できないことへの抵抗が大きい。

・初めての学習内容に対しては不安をもちたり緊張が高くなったりし、取り組むことが難しい。また過去に取り組んだことのある学習で、「できた」学習に対しては自信をもって取り組むこともあるが、「できなかった」学習に対しては苦手意識を強くもってしまい学習に取り組みにくい。

・答えや取り組むことがはっきりと理解できるものでなければ、学習に取り組むことは難しい。自分で何かを想像して考えた

り、何かを考えて行動したりすることは苦手である。

- ・これまで集団での学習に取り組めた経験が少なく、グループ学習には参加しにくい。また、10人以上の集団になると、教場での学習は困難である。
- ・あまり関わりのない教員には、不安度が高く、緊張して教場へ入れない原因の一つとなる。
- ・集団に入ると、周り自分を比べてしまい、さらに緊張と不安が高くなる。
- ・全体の中での発表などは非常に緊張が高くなり、参加しにくい。

<社会性>

- ・落ち着いているときには挨拶や礼儀作法などを意識して行うことができる。
- ・常に不安をもったり緊張が高くなったりし、関わりのない人との接触では、事前にどのような人と関わるのかという情報がないと、逃げたり泣いたりしてしまう。
- ・仲良くなったり、何度か関わったりすると、同年代(生徒同士)とは距離が近くなり過ぎてしまうことがあり、自分だけのペースで自分の話ばかりしてしまう傾向にある。
- ・慣れてきた大人には、どのような人物なのか知るために言葉や行動で試すような場面が見られる。(「～してもよい?」「～しよう」といった言葉をかけながら相手の反応を見る)
- ・困っていることや考えていることを相手に伝える力はまだ弱い、関係の築けている教員や友達に伝えることができ始めている。
- ・自分の知っている友達に対しては優しく、気を遣ったり、優しい言葉をかけたりと友達思いの面もある。

○活動の具体的内容と事後の変化

- ①使用した機器等:iPad
- ②実施した時間帯(表1)

(表1)活動内容と時期等

活動内容	時期/時間帯
体育祭に向けての準備 ・体育祭における「リズムダンス」 (準備期間中は毎日)	6月30日～7月6日まで(5、6時間目)
修学旅行の事前学習 ・行き先調べ ・行程表作り ・見学場所の確認 (週1回の総合的な探究の時間、LHR)	7月13日(総合的な探究の時間、LHR) 7月16日(LHR) 12月14日(総合的な探究の時間、LHR) 12月21日(総合的な探究の時間) 1月11日(総合的な探究の時間、LHR)
自己表現の学習 ・自分の思いを写真撮影(カメラ機能) ・写真の編集(写真アプリ) ・自分の写真に対する思いや表現を整理して文章に書き表す。	9月28日(3時間目)
文化祭に向けての準備 ・「模擬店」 (準備期間中は毎日)	11月2日～11月10日まで(5、6時間目)

③実践活動

ねらい①に対する取組と対象生徒の変化

取組 「登校後に1日の流れを確認し、下校時は1日の振り返りと翌日の予定確認を行った」

○「チェックシート」の作成と活用

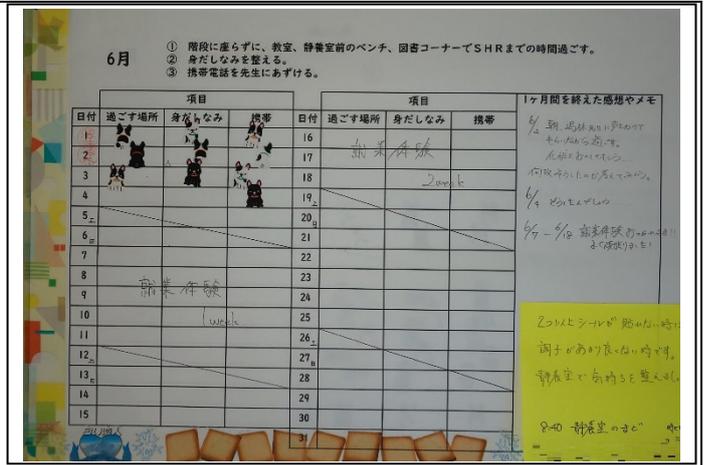
- ・登校後から朝のSHRまでの時間に、本人が安定した状況であることを、自分で確かめられるように「チェックシート」を作成した(図1)。
- ①朝のSHRまで「どこで過ごしていたか」
- ②「身だしなみを整えることができていたか」
- ③「携帯電話を片づけることができてきているか」という3つの項目で、できていればシールを貼る。
- ・シールが貼れていれば、安定しているバロメーターになり、貼れない時は、何らかの要因があって、不安定だと分かる。
- ・朝のSHR後に、「チェックシート」を担当に提出して、さらに、教員と一緒に1日の流れを確認し、見直しをもって1日を過ごした。
- ・下校前に、その日の振り返りと明日の予定の確認を教員と一緒にやる。その際に、本人自身が、行動と気持ちの確認ができるように、本人の置かれている状況から気持ちを汲み取り、教員が言語化して本人に丁寧に伝えていくことで自己理解を促していく。

○「チェックシート」の活用状況

- ・「チェックシート」を持って教室に向かいSHRを受ける。
- ・シールが貼れた日は、不安や緊張が低く、本人も安心している。
- ・3つの項目にシールが全て貼れている時は、朝から穏やかに過ごすことができています。しかし、シールが2つ、1つになるにつれ、SHRに出席できなったり、感情が不安定になったりしており穏やかに過ごすことができていない状況を示している。
- ・シールの貼り方で本人が自身の状況を客観的に理解することができるのに加えて、「シールが3つである」ことは「やろうと決めたことができています」ことを示すため、後日見返した時に自分の頑張りを実感することができた(できたことや積み重ねの可視化)。
- ・担任をはじめとする教員も、本人の状況を把握したうえで対応することができた。
- ・下校時は穏やかにしていることが多く、1日をしっかりと振り返ることができる。授業(教場)を飛び出してしまう時や、感情が不安定になってしまったことなどの理由を教員に話すことができるようになってきている。また次からそういう時にはどうしていけば良いかを、教員と一緒に考えることができるようになってきた。

○「チェックシート」の結果

- ・どうしてもシールが3枚とも貼れない日(不安定な日)は、10月以降、10月2回、11月0回(図2)、12月1回(図3)、1月1回といずれも減少し、「チェックシート」をはじめてからは、概ね安定して過ごすことができた。



(図1) 「チェックシート(6月)」



(図2) 「チェックシート(11月)」



(図3) 「チェックシート(12月)」

- ・当初は、担任2名と本人の3者で一緒に振り返りを行ったが、文化祭の取組の頃に、他の教員との関わりを自ら申し出た。

- ・振り返りは対面で直接の会話で行った。3学期、本人から「毎日(1日を通して)6時間目まで授業を受けたい」との申し出があった。本人の学校での不安が軽減できてきた表れと受け止め実施することになった。3学期より通常の日課で登校し学校生活を送っている。
- ・本人との振り返りにもICTの活用を考えたが、本人から「振り返りはICT機器を使用するのではなく、人と話しながら行いたい。できれば、授業で使っていきたい」と自分の思いを述べる場面があり、iPadの活用は授業場面と限定し、振り返りはしっかりと本人と言葉でのやり取りを大切にした。

ねらい②に対する取組と対象生徒の変化

取組1 1学期 体育祭に向けて

○体育祭のダンスをiPadで録画して家庭で予習する事前学習の実施(総合的な探究の時間、LHR)

- ・本人は、体育祭でダンスを発表する担当になり、iPadを自宅に持ち帰りYouTubeのダンスの動画を見て、振り付けを覚えた。
- ・友達のダンス練習風景をiPadに録画して、自宅に持ち帰って練習することもできた。このことにより、次の登校時には安心して、集団でのダンスの隊形の話し合いやダンスの練習、アレンジした振り付けを考えていく等の活動に参加し、本番のダンスの振り付けを決めることができた。
- ・決まった本番のダンスの振り付けや隊形をiPadに録画して、休日には自宅に持ち帰って練習できた。
- ・自宅で練習した次の日は、学年集団の練習に参加した。そして、当日はみんなと一緒に、恥ずかしそうにしつつも、発表することができた。本番当日の振り返りでは「みんなと一緒に発表できてよかった」「楽しかったよ」と話することができた。

取組2 2学期 修学旅行に向けて

○学年集団で実施する修学旅行事前学習(総合的な探究の時間、LHR)

iPadを生徒1人1台使用し、学年集団で学習を実施。

- ・本人が普段から使い慣れているiPadを授業で使用することで、授業に参加しやすいのではないかと考え設定をした。
- ・学年全員が授業でiPadを使用することが初めてなので、本人は、iPadの使用に不安がなく、周りがスタートすることで「友達は、今回の学習で初めてタブレットを使う」ということを意識させた。
- ・修学旅行の事前学習ということもあり、それぞれが調べる等の個別の課題についてiPadを使って調べ学習を行うところから徐々にグループで考えをまとめる等の課題へと移行することで、学年の友達と交流しながら学習を進めていった。
- ・結果的に修学旅行は、コロナ禍により延期の後に中止となった。最終変更場所はユニバーサルスタジオジャパンで本人の行ったことのある場所だった。

○修学旅行事前学習でのiPadの活用

- ・iPadを使用し、行程表を確認しGoogle Mapsのストリートビュー機能で実際にどのような場所に行くのかを調べた。本人も集団の中でiPadを使用し、周りの生徒と自分が調べた場所の街並みについて見せ合うことができた(図4)。
- ・みんなの前に出て、iPadを接続し、教員に促されると調べたものをスクリーンに映し出し、全体に紹介することができた(p. 5の図5)。
- ・本人は、変更になった修学旅行の行き先においても事前学習からiPadで、ユニバーサルスタジオジャパンのサイトを活用し、一緒に回る予定だった友達に園内のことを説明することができた。
- ・今までならば、一方的な説明が多く、自分の意見ばかり伝えてしまうところだが、相手の意見を聞きながら、自分の意見と折り合いをつけて行程を決めていた。



(図4) 友達とiPadでやり取りする生徒

・これまでは人と接する時に、つい一生懸命になりすぎてしまい、何とか話の間を埋めようと必死な姿が見られたが、iPadを使った学習の場では相手を見る余裕も見受けられた。



(図5) 自分が調べたものを全体に紹介する生徒

取組3 2学期 自己表現の学習

○学校生活で一番印象深く思い出の場所(総合的な探究の時間)

iPadを活用して写真を撮る

- ・学年集団で、これまでの学校生活の思い出をiPadで撮影する自己表現の学習に取り組んだ。
- ・1人1台のiPadを持ち、自由に写真を撮ってくる学習である。

○iPadによる思い出の場所の撮影

- ・生徒も集団の場面で説明を聞くと、iPadをもって思い出の場所を撮りに出かけた。終始安定して活動に取り組むことができた。
- ・iPadのカメラ機能を活用し、「人は撮らない」という注意事項を守らず、人を対象に写してしまうこともあったが、最終的には「学校生活で、一番印象深く思い出の場所」として、自分で選んで決めて、本人が写真に収めた(図6)。
- ・本人が撮影したのは、これまで個別学習で使用していた部屋であった。



(図6) 本人が撮影した思い出の場所の写真

取組4 2学期 文化祭に向けた学習

○学年で取り組む模擬店(総合的な探究の時間)

iPadを使った事前学習から準備・企画

- ・文化祭で、学年集団として模擬店を実施することになった。

○模擬店販売のための事前学習でのiPadの活用

- ・準備場面で、iPadを活用して模擬店で販売する商品を調べ、決定する活動を実施した。
- ・本人はiPadを巧みに操作し、着々と商品を探すことができた。そして、周りの友達に自分の探した商品についてiPadを差し出すようにして見せたり、これでよいかと聞いてみたりでき、「ごく自然な対人やり取り」と思えるような姿や関わりを見せた。その日の振り返りでは、本人から、「あまり意識していない。(意識しなくても)特に何も考えずにみんなと(普通に)話せていた」と、得意げに感想を話すことができた。

○活動からの考察

- ・「何かを考え、自分の意見を伝える」ということは、本来、本人の実態からするとかなりハードルの高いものであったであろうが、「分からないことはiPadで調べることができる」「iPadを見せたら伝わる」という自信や安心感から、積極的に参加することができた。実際に、文化祭の担当である模擬店では、本人がつけた「店名」で、選んだ「商品」を販売することになった。また、結果として、全校でその模擬店の内容で「優勝」することができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

主観的気づき

- ・様々な学習の中で、iPadを取り入れた活動を行うことで集団の中で学習することに慣れ、現在ではiPadを利用しない授業でも比較的落ち着いて集団の中で学習し参加することができている。

- ・iPadの使用方法が分からない友達に教えたりすることができた。自分の「得意なこと」をコミュニケーションツールとして周りの友達と適切な関わり方をする事ができた(一方的な関わりや、話題の全然ちがうようなことではなく、相互に話題に沿った関わり方で)。
- ・iPadを使用し、あらかじめ授業の内容(様子)を知ることで、不安や緊張を和らげ授業に参加することができた。
- ・本人が授業に参加し友達と関わることで、少しずつ「人との関わり方」に自信をつけていく姿が見られた。
- ・人と安定して関われるようになったことで、自ら授業に参加したいという意識も芽生え始めた。
- ・友達と安定して関わることで、自分自身が落ち着いて過ごすことができるということを感じている。人と関わるきっかけとして、授業におけるiPadの使用は大きかった。本人が授業で多々活躍する場面があり、友達と関わることで「学校=安心できる場所」となった。
- ・ICTを使用していなければ、周りとの関わり方のきっかけはこんなにもスムーズではなかったかもしれない。
- ・授業でこんなにも活躍する場面は見られなかったかもしれない。

ICTの役割

- ・ICT機器の役割として、一つは授業に参加するツールとしての役割。
- ・事前に授業を録画し、事前に授業の様子を知ることで不安や緊張を和らげる役割。
- ・授業に参加できなかった時に、事後に授業の様子を知ることで、不安や緊張を和らげて次回の授業にスムーズに参加するための役割。
- ・学習の内容で練習が必要なものや、不安や緊張が高いものに関しては、自宅に持ち帰って事前、事後に練習や学習することで自信をつけてから学校での活動に参加するのを支援する役割。
- ・人と関わるきっかけとしての役割。

今後の課題

- ・iPadによる振り返りを行いたかったが、まだまだ、本人が人との関わりを強く求めており、iPadによる振り返りを拒んだ。
- ・今後、学校卒業のことを考えると、「自らICT機器を使用し、見通しをもち振り返りを行って、気持ちを落ち着かせて過ごしてほしい」と考えていたが、ICT機器による利便性をうまく伝えきることができなかった。
- ・教員が、iPadの機能をどのような場面でどのような活用方法があるのかということをお細かく伝えることができなかった。
- ・もっと機器を自己選択できるような使い方や教え方が必要だった。

エビデンス(具体的数値など)

「人との関わり場面における本人の姿の変容」(VTR記録起こしより)

ねらい①に対して

先の見通しをもち、様々なことにおいてできるかぎり不安や緊張を和らげながら、落ち着いて学校生活を送れるようにする。

○7月16日(金)下校時のSHRの様子

- ・本人は、保健室奥のスペースで、副担任と一緒に週の振り返りと、翌週月曜日の予定確認を椅子に座って行っている。リュックサックは背負ったまま、心の支えとして湯たんぽを握りしめながら副担任の話の聞いている。後程、主担任も合流する。

副担任「今週どんな週やった？」

本人「今週は化粧したいけどできひんかった。来週してくるわ」

副担任「朝全部(「チェックシート」)今週オッケーです。今週逃げるとかなかったな。今週逃げてないやん」

本人「逃げたで」

副担任「逃げてないやん。ちゃんと〇〇先生に言ってたやん」

副担任「来週はLHRでスキルアップ授業があるよ」

主担任「他校の生徒も来るよ」

本人「メイクして隠すわ。指輪して、ネックレスもして、ピアスも開けて、〇〇(友達)の邪魔してよい？」

- ・年度当初に比べ、朝のSHR後の見通しの時間や下校時の振り返りの時間を落ち着いて過ごせるようになったものの、以上のようなやり取りで教員の反応を試す発言が見られた。

ねらい②に対して

集団の中で学習に参加し、「できた」という経験を積み重ねることで自信をつけ、「他者と協働してよかった感」をもつ。

○9月28日(火)「自己表現」総合的な探究の時間(3時間目)の様子

【学習内容】

- ・「学校の1コマ」をテーマにiPadを活用して、自分の思いを一枚の写真に収める。
- ・撮った自分の写真に対する思いや表現を整理し、ワークシートに記入する。
- ・本人は、学年集団(高等部3年生14名)での学習活動に参加し、主担任の全体指示を聞きながら、教室前方ホワイトボードに映し出されたパワーポイントを見て、学習の流れを確認した。
- ・昨年度の個別指導の実施場所であった食品加工棟を撮影場所に決めた。
- ・副担任と一緒に教室を出ると並んで、廊下を歩き、途中、副担任が職員室で食品加工棟の鍵を取りに寄っている間も落ち着いて待っていた。真っ直ぐ目的地へ向い、室内をiPadのカメラ機能で撮り、軽くスキップしながら副担任と一緒に教室に戻る。
- ・一番後方(窓の前)の席に座ると、すぐにiPadを操作して、撮ってきた写真を画面に映し出し「これにする」と写真を選択し、すぐ傍に座っている副担任に画面を見せて嬉しそうな表情を浮かべた。
- ・iPadで撮った写真数枚から、昨年度個別学習で多くの時間を過ごした食品加工棟の一室を写した写真を一枚選択し、iPadの「写真」アプリを使って、写真のコントラストや明るさを調整する活動にも安定して取り組んだ。
- ・「先生、これでいいやん、見て見て～」と教室前方で机間指導していた副担任を呼び示すと、活動終了まで学年集団と落ち着いて学習に取り組んだ。

○11月2日(火)学年集団で取り組む「文化祭模擬店」総合的な探究の時間(3時間目)の様子

- ・文化祭に向けた学習場面。本人は友達と模擬店の担当となり、そこで販売する駄菓子を何にするかiPadを活用して調べ、調べたことをもとに友達と話し合う活動に取り組んだ。

【本人と友達のやり取りの様子】

本人「ななあ、このラムネは?(iPad画面を見せる)」

友達A「あっ」

友達B「いいやん」

友達A「昔ながらの!!」

- ・ラムネを映し出したiPadを友達に差し出しながら穏やかにグループの友達3人と関わり合いながら話ができた(図7)。



(図7) グループでiPadを使って駄菓子を調べている様子

【全体を通して】

ねらい①に対して

- ・生活や学習に見通しをもつために、いつ、何がどのように起こるのかを明確に示すことを行った。そのことにより、日常の不安や緊張を軽減することができた。
- ・見通しをもつ時間や振り返りの時間を通して「不安と緊張の原因」を本人と話しながら探った。その一つに緊張や不安を和らげるものとして、「見通しをもたせるための具体的な内容の提示」と「具体的な行動の指示」が理由と考えられる。
- ・年度当初に比べ、見通しの時間や振り返りの時間を落ち着いて過ごせるようになったのは、このような緊張や不安を和らげながら活動に入り少しずつ「できる」を積み重ねたからだと感じる。このように、「自分がやってきたこと・できたこと」の積み重ねが人との関わり(をすること)に対する抵抗を和らげさせ、さらに自信をつけていると感じた。

ねらい②に対して

- ・本人は、自宅ではスマホやタブレットなどを使用し、音楽を聴いたり動画を見たりして過ごすことに使っていたiPadを授業で使用することを支えに、集団学習における不安を軽減し、自信を取り戻し、自ら活動に向かうことができた。
- ・集団の中で活動できたことに対して、本人は嬉しそうにしている。今まで、集団で活動することに対して緊張や不安をもっていたが、iPadを活用して「事前に活動の内容をより具体的に知る」ことで集団の中で学習できる自信は多少ついたように

感じる。

- ・何よりも当初、本人が目標としていた集団の中で活動するといったことに対して達成できている感、日々見受けられる。
- ・実際に集団で活動できた際には「みんなと一緒に勉強できた」「授業から抜けずに勉強してきた」という言葉が本人から出てくるようになったことは大きな変化だと感じる。これが「他者と協力してよかった経験」となり、卒業後に様々な人々と関わる際の一助となるだろうと期待している。

取組を振り返って

- ・本人にとって、iPadは、授業(学習)で他者と学び合うために大切なアシスト機器であると同時に、もともと潜在的にもっている本人の知識や人間性を引き出しさせているように感じた。
- ・授業という生活の一場面を通して人と関わることを学び、普段の生活の様々な場面でそれを活かすことができている。
- ・今まで休み時間は、ずっと静養室だった。つまり、一緒に過ごす相手は教員であった。今では、元気に廊下や教室で友達と話している。実はもともと人が好きなのかもしれない。学習でつまづきが続いて、積み重なり、自信もなくなり、人との接し方が分からなくなったり迷ったりして不安や心配が大きくなり過ぎていたのかもしれない。それがiPadというツールを使うことを一助として、人と関わることに楽しさや嬉しさを感じることができたのは、社会に出る時を目前とした本人にとっては大きなプラスになったと実感している。
- ・iPadの使用による本人の変化を数値化することは非常に難しい。しかし、明確な変化として、個別で学習していた生徒が、今(2/4現在)毎日、元氣よく集団で学習していることは特筆するに値する。